

学力向上について

1 「全国学力・学習状況調査」からみる市内小中学生の学力について

文部科学省は、小学校6年生と、中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」を毎年1学期初めに実施しており、その目的は次の3つ。

- 義務教育の全国的な児童生徒の学力や学習状況を分析し、教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 教育に関する継続的な改善策を確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

一昨年度は、実施日直前に新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となったが、昨年度は小学校で国語・算数、中学校で国語・数学が実施された。これまで、中学では英語の学力検査が行われた年もあった。

今年度は4月19日に、小学校で国語・算数・理科、中学校で国語・数学・理科のそれぞれ3教科が実施された。理科は4年ぶりの実施となった。

国語と算数・数学の学力については、ここ数年の児童生徒の学力傾向は調査する年によって若干の違いはあるが、小・中ともに各教科の平均正答率は全国と比べて、「ほぼ同じ」レベルと言える。

国語の基本である「読む・書く・話す・聞く」、また、算数・数学の「計算や図形問題」等では課題もあり、それらの結果については真摯に受け止め、学校での学習指導の改善や充実に向けて対策・対応をしている。

各年の調査結果については、毎年、小諸市のホームページでお知らせしており、今年度の結果についてもまとまり次第、掲載する予定。

2 「全国学力・学習状況調査」からみる生活習慣や学校環境に関する質問について

例年、上記学力調査に加えて、生活習慣や学校環境に関する質問紙調査も実施されている。

例えば「朝食を食べていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しいですか」「1日当たり、どれくらいの時間、ゲームをしていますか」等、70問ほどの質問がある。

これらの質問のうち、いわゆる自己肯定感にあたる「自分にはよいところがありますか」という問いに対して、市内の小中学生の良いと思っている割合は、ここ数年、全国平均を下回る傾向があり「家庭でも地域でも子どもたちの自己肯定感が育つ環境や関わり方を一緒に考えましょう」と啓発している。

3 質問結果と学力調査での正答率の関係性について

よく「早寝・早起き・朝ご飯」の必要性が言われているが、質問結果と学力調査での正答率の関係性を見ると、早寝・早起き・朝ご飯の生活リズムが整っている児童生徒ほど、正答率が高い傾向にある。

また、1日当たりのゲーム時間と正答率の関係性についても、ゲームをする時間が短かったり、自分で時間をコントロールできたりする児童生徒ほど、正答率が高いと言える。

これらは、小諸市に限らず、全国の分析結果からも同じことが伺える。

このように、一言で「学力」や「学力向上」と言っても色々な要素が絡み合いながら、学力は上下する。

学校での授業内容、児童生徒の学習意欲、友だち関係、家庭環境の在り方、保護者・地域と子どもたちの関わり方等々、学力に関わる要素は様々である。

4 最後に

学校再編に関わり、小諸市教育委員会では小中一貫教育を進める方針としている。小中9年間の一貫した学習指導方針により、児童生徒の探求的な学習形態や関心・意欲を高め、更なる学力の向上を目指したい。